

所在地 長野県長野市新田町 1 1 0 3 - 1

預金量 9,237億円 (2018年12月)

店舗数 52店舗

海外拠点 1 場所 (シンガポール駐在員事務所)

伴走型支援での取り組み

知財情報をもとに、自力で情報収集⇒仮説構築⇒ヒアリング できるスキルの獲得

- 当組合は、かねてよりお客様の「知的財産」に着目した取組をできないかと考えており、その一環として特許事務所との連携や、経営デザインシートへの活用に向けた研修実施等に取り組んできた。
- 伴走型支援は、その流れの中で取り組むこととしたものであり、職員がJ-PlatPatを活用することで、質の高い事業性評価を実施できるようにことを期待していた。
- 研修を受講して、金融機関ならではのJ-PlatPat活用方法を学び、実際に6社を対象として試行することで、自力で知財情報を活用した事業性評価を実施するスキル獲得に至った。

研修の様子



J-PlatPat

↓ 知財情報

事業性評価につながる視点で、収集した情報を整理

お客様の特徴・強みや課題等に関する仮説を検討

仮説検証型のヒアリングを実施し、真の実態把握・課題抽出を実現

取組例（製造業A社）

J-PlatPatの活用で新たにわかったこと

- ✓ 発明をしているのは、ほとんど社長
- ✓ 似たような特許を出願している企業（競合可能性がある企業）が多い
- ✓ 当社は、ランニングコストを低減できる製品の開発に尽力している

ヒアリングをしてわかったこと

- ✓ 社長は前職で技術力を磨いた。従業員への伝承は、意識的に実施している。
- ✓ 「効率性が高い」という点で差別化を図っている
- ✓ コスト低減を実現しているものの、いまいち知名度が低いのが課題